

学校給食用牛乳の多面的価値を未来へつなぐ – 地域が育む子どもの成長と持続可能なフードシステム –



日程 2026年1月19日（月）13:00～17:30

会場 コングレススクエア日本橋

東京都中央区日本橋1-3-13 東京建物日本橋ビル3Fホール

シンポジウム終了後、同会場内にて情報交換会を開催します

情報交換会も含めてご参加は無料です

乳の学術連合では、子どもの食生活・地域の酪農生産・地域乳業の経営・地域フードシステム・ミルクサプライチェーンといった社会的側面に対して、様々な専門領域に携わる6名の研究者が、「学校給食用牛乳」という共通の切り口で調査研究をおこなう「学校給食牛乳に関する領域横断的共同研究」（2022～23年度）に取り組みました。その成果を研究者自身の報告としてご紹介すると共に、持続可能なフードシステムとしての酪農乳業の在り方を考える、シンポジウムを開催いたします。

プログラム概要（※）

講演 乳の学術連合「学校給食牛乳に関する領域横断的共同研究」が目指したもの

研究代表者 木村純子（法政大学経営学部 教授）

講演 学校給食で提供される牛乳の栄養及び地産地消食品としての意義について

野末みほ（常葉大学健康プロデュース学部 教授）

講演 学校給食用牛乳提供の意義と地域における持続可能な供給に向けた展望

柴 英里（東洋大学食環境科学部 准教授）

講演 学校給食用牛乳供給システムの持続可能の再構築－関係者の協働を支える制度とは－

清水池義治（北海道大学大学院農学研究院 准教授）

講演 食育連携強化を通じた学校給食牛乳の社会的価値の向上

光成有香（尚絅大学現代文化学部 助教）

講演 学校給食牛乳（学乳）の再定義：テリテーリオと地域循環型フードサプライチェーンの構築

木村純子（法政大学経営学部 教授）

講演 「学校給食牛乳の再定義」～「一杯の牛乳」が繋ぐ子どもの未来と地域酪農の持続可能性～

前田浩史（乳の学術連合乳の社会文化ネットワーク 幹事）

酪農家・乳業者・学校教諭を交えてのパネルディスカッション



お問い合わせ先・申し込み
「学校給食用牛乳シンポジウム」事務局



※：演題名等は今後変更になる可能性があります。

主催：一般社団法人 J ミルク 協力：乳の学術連合 運営協力：女子栄養大学出版部

後援：農林水産省、独立行政法人農畜産業振興機構、公益社団法人全国学校栄養士協議会、

公益財団法人学校給食研究改善協会、畜産経営経済研究会、日本酪農教育ファーム研究会、
日本酪農乳業史研究会